



# 海洋摂理概観

真の御父母様が40年間投入されてこられた海洋摂理の明確な目的と出発点と方向性とは一体どんなもののでしょうか？

まず、これらを様々な観点からご紹介していきたいと思います。

# 海洋摂理のとらえ方

真の御父母様が四十年間以上に亘って投入し主導してこられた海洋摂理の内容は膨大であり、そこには重大な意義が込められています。海洋摂理はいろいろな観点や角度から理解することができます。

- ① 第三祝福の復帰
- ② 期間区分
- ③ 場所と順序
- ④ 人類文明の変遷史
- ⑤ 縦横の摂理
- ⑥ 日本の使命・韓国の使命

...から観た海洋摂理

# 海洋摂理概観①

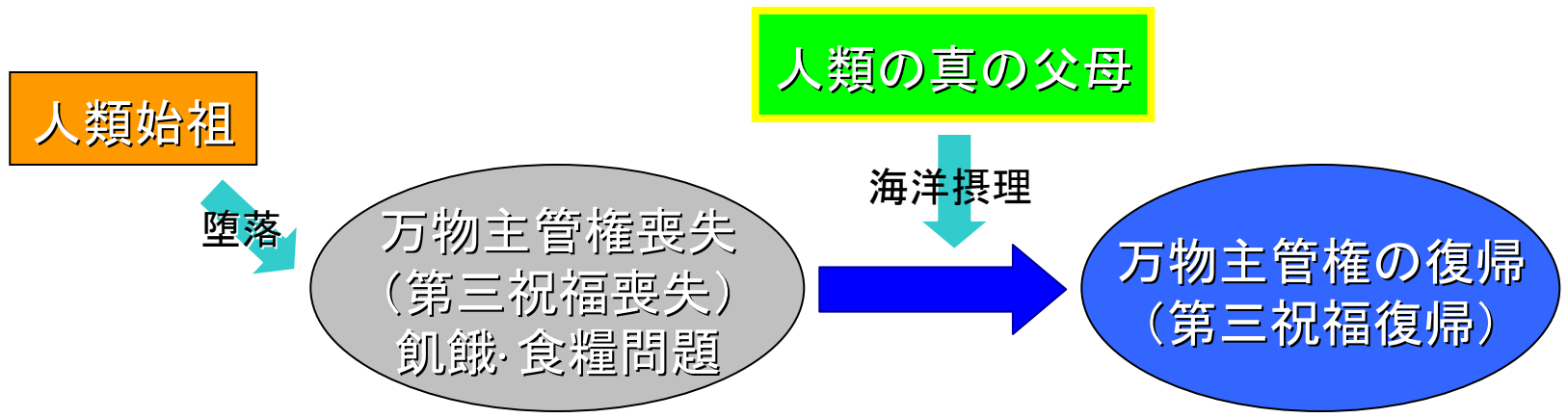
## 第一、第二祝福復帰と第三祝福復帰

人類は人類始祖の墮落によって三大祝福を失い万物主管権を失ったため、歴史上常に飢餓・食糧問題を抱えて生きてきました。宇宙にまで行ける技術を持った今日でも、この問題は解決不可能のまま残されています。

墮落に起因した飢餓・食糧問題は、いかなる人間の努力によっても解決されません。人間が自己中心であるという墮落性を脱ぎ捨てなければ食糧問題は解決されないのです。いいかえれば飢餓・食糧問題はメシアによってしか解決されないのです。

神様の愛を中心として心と身体を一体化させ個性完成を成し遂げることによって第一祝福が復帰され、真の家庭・氏族・国家・世界・宇宙の完成を成し遂げることによって第二祝福が復帰されます。同時に、神様の愛を中心として被造万物世界に対する正しい主管が実現されるとき第三祝福が復帰されます。

真の御父母様は海洋摂理を通して飢餓・食糧問題や南北問題などを解決し、第三祝福を完成され、被造万物世界の所有権が神側に完全に転換された新しい世界を構築しようとされておられるのです。





# 海洋摂理概観② 期間区分

真の御父母様は1963年の天勝号奉獻から今日まで四十数年の時を経ながら海洋摂理を主導して来られました。その期間を区分してみると次の様になります。

## 1963年7月26日～1993年： 海洋摂理基盤造成時代

「万物の日制定（天勝号奉獻、6月26日）」からの30年期間。  
真の御父母様を中心とする海洋摂理は韓国で出発。その後アメリカを中心舞台として展開。海洋摂理出発より1993年までの基盤造成の為の期間。

## 1993年～2003年： 海洋趣味産業摂理時代

「海洋趣味産業摂理構築時代の出発」からの10年期間。海洋摂理は特に北米・南米・環太平洋（ハワイ中心）摂理を中心に展開される。この期間、真の御父母様が一貫して追求されてこられたものは「海洋趣味産業モデル基地」構築。

## 2003年～現在： 韓国・麗水を中心として人類総和文明結実に向かう時代

1963年以来展開されてこられた海洋摂理・海洋趣味産業摂理は、40年ぶりに再び韓半島に上陸し「海洋趣味産業モデル都市」建設という結実に向かって総進撃。

## 2012年： 世界的海洋摂理基盤の完成完結（目標）の時代

この年までに「麗水海洋趣味産業モデル都市」建設を完成させる。同時に40年間真の御父母様が縦的に投入し勝利してこられた北米・南米及び環太平洋地域に、現実的、実体的海洋趣味産業モデル基地または都市を現実化させる期間。同時にこれらの実体的勝利圏を韓国麗水を中心に世界12地域に拡大し、これを世界超高速道路（ワールドピースキングブリッジトンネル）で繋ぎ、地上天国建設の具体的基盤を形成する期間。

# 海洋摂理概観③

真の御父母様が中心的に投入されてきた場所とその順序



真の御父母様の海洋摂理投入の足跡は、韓国（1963年）から出発し、北米、南米、ハワイ及び環太平洋諸国を経て再び韓国・麗水に上陸しました。





# 海洋摂理概観③

## 真の御父母様が中心的に投入されてきた場所とその順序

### 韓国: 海洋摂理の出発点

韓国は海洋摂理の出発点です。北米や南米、環太平洋諸国で発展した海洋摂理の結実と勝利圏は常に韓国に連結されました。韓国は更にそれを高め海洋摂理を世界へ発信していく拠点ともなってきました。

### 北米:

1971年に渡米された真の御父母様は、即時に海洋摂理に取り組み、1974年から1994年までの20年路程を土台に、全米沿岸30ヶ所へとその戦線を拡大されていきました。北米で水産業、造船業、海洋教会などの海洋摂理全体の骨格が確立されました。

### 南米:

1994年から2000年11月30日までの7年間、真の御父母様は主にジャルジンを中心とするパンタナール及びその周辺33ヶ都市、パラグアイ河、パラナ河、ラプラタ 河口流域及びラプラタ河河口に位置するプンタデルエステに集中的に投入されました。南米で先天時代に別れを告げる「復帰摂理完了、地獄の開放、サタンの自然屈服、第四次アダム圏時代の招来、神様王権即位式のための最後の40日条件路程期間」など、極めて重要な勝利圏を成就されました。

### 環太平洋島嶼諸国:

2000年11月30日から2003年12月12日までの3年間、それまで北米、南米において構想を固めてこられた海洋趣味産業摂理を、ハワイ島はじめ環太平洋諸国14ヶ国に於いて、一挙に展開されました。ハワイは東西両文明の融合の地であり、ここが架け橋となって海洋趣味産業は韓国・麗水に連結していくのです。

### 韓国・麗水: 海洋摂理の結実点

真の御父母様は海洋摂理40年目にあたる2003年10月から本格的に韓国の麗水に海洋趣味産業モデル都市建設の為の投入を開始されました。麗水は環太平洋における海洋趣味産業摂理が最終的に結実する場所であり、韓半島に上陸する場所です。ここで40年間に亘る投入の全てを背景に人類総和文明の出発がなされるのです。



# 海洋摂理概観④

## 人類文明の変遷史から見た海洋摂理

人類始祖の墮落によって本来神様が目的とされた統一文明（海と陸と空、東洋と西洋、天と地、精神と物質、東西南北、過去、現在、未来などの統一・総和）は形成されませんでした。イエス様が来られて、この目的を果たそうとされましたが無念にも成就できませんでした。

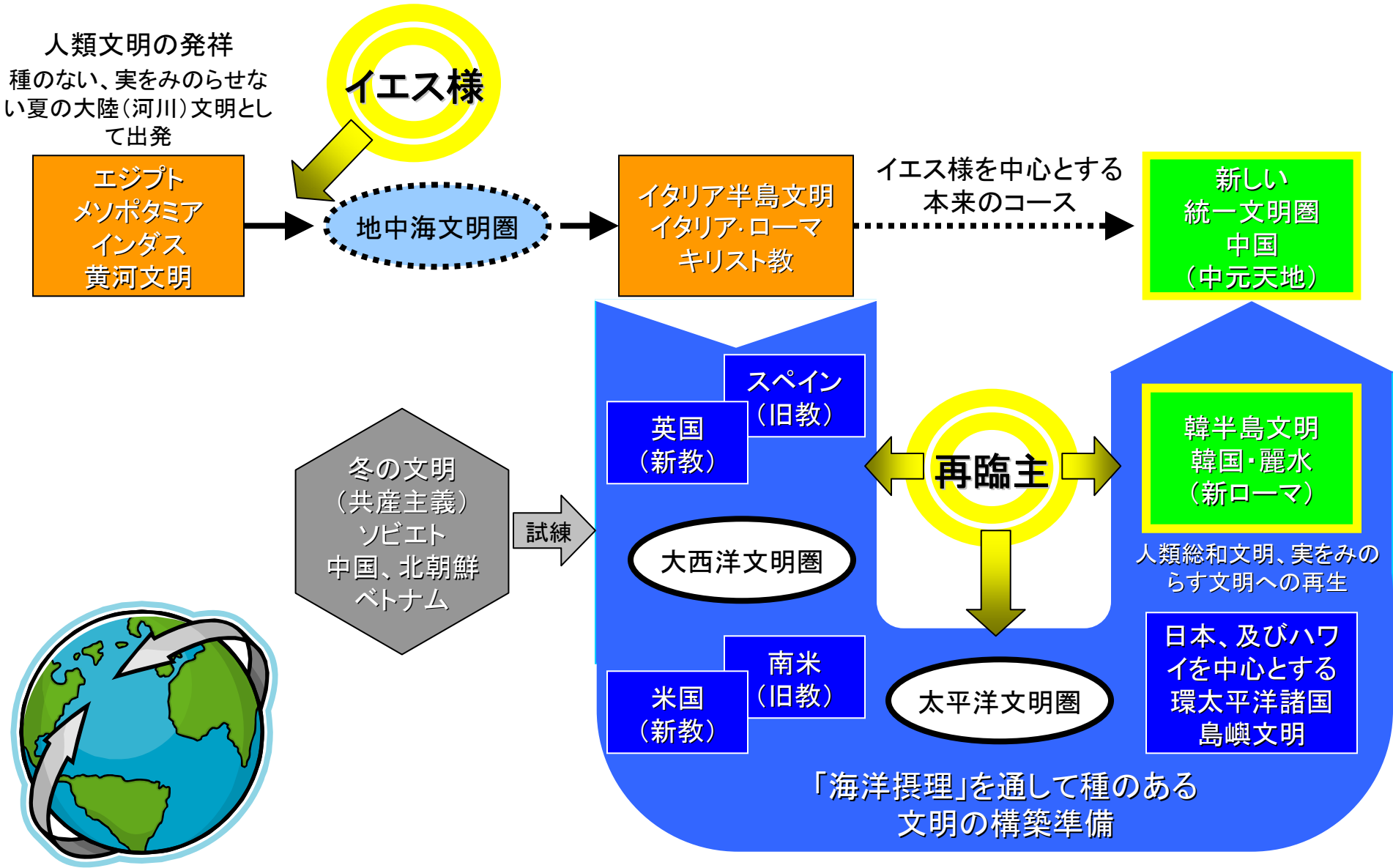
そこで人類文明の変遷史は地球を逆周りし、欧米、環太平洋諸国から韓半島に上陸する形で再臨主を迎え、本来目的とした「種のある文明」、統一文明が成就されるようになりました。この文明は海を出発点とした文明であり、真の御父母様は、生涯の三分の二の生活を海洋摂理に投入されてこの目的を成就されようとしておられるのです。

「今後どのような文明時代が来るのでしょうか。春の季節文明時代(海洋と陸地が調和した文明)がくるということです。人類が墮落しなければ、春の季節から始まったのですが、墮落することによって夏の季節から始まりました。春の季節は永遠に続くことができます…今までのこの墮落した世界の文明圏は種のない文明として流れてきたので絶対に生命に接近することができないということです。したがって、冬の季節の文明を迎えても春の季節の文明を迎えることができないのです。」

『環太平洋摂理』 236頁 第四章 「神様の摂理から見た海洋文明」より

# 海洋摂理概観④

## 人類文明の変遷史から見た海洋摂理





## 海洋摂理概観⑤ 縦横の摂理

縦的摂理： 真の御父母様を中心とする海洋摂理

横的摂理： 私達・子女が担う海洋摂理

真の御父母様は人類の真の父母として、全天宙的立場、全世界的、全人類史的立場に立たれておられます。

その立場で自ら海洋摂理、海洋趣味産業摂理の先頭に立たれ、人類の食糧問題解決、被造世界に対する神様の所有権転換、地上天国建設の道を開拓され、それぞれの摂理的ポイントとなる地域を中心として縦的な勝利の基盤造成を展開してこられました。

後天開闢時代に入った今日、子女である私達祝福家庭がそれを引き継ぎ、その勝利の基盤の上にその方針に基づき更にそれを現実化実体化させ横的な勝利の基盤を造成しなければなりません。



## 海洋摂理概観⑥ 日本の使命・韓国の使命

日本はイギリスの代わりにエバ国家として立てられました。したがってイギリスが失敗した全ての摂理的内容を蕩滅復帰すると共に、母親国家、平和国家、海洋国家としての日本の使命を達成しなければなりません。

そのためにはまず第一に西欧、北米、南米を中心として発展してきたキリスト教（プロテスタント・カソリック）を中心とする大西洋文明を相続してその使命を果たさなければなりません。

次にハワイを中心とする環太平洋摂理を通して東西文明の融合に責任を持ち、環太平洋文明の終結点であり人類総和文明の出発点でもある韓半島海洋摂理（麗水）に全面的責任（人材、資金、技術）を持たなければなりません。

この日本の使命は2012年まで続き、その後（1945年から70年後からとも言われています）は韓国が責任を持って海洋摂理を発展させていかなければならないと言われています。

# 「海洋摂理概観」 終了

以上、海洋摂理のいろいろな概観を簡略に紹介いたしました。引き続き第一章の「海洋摂理の幕開け」をご覧ください。

「海洋摂理の幕開け」では御父母様がいかに海洋摂理を出発し、商業・スポーツ両面に於ける海洋・河川・湖等に関わる産業をあらゆる分野からどのように手掛けてこられたかという内容についてご紹介致します。

[目次に戻る](#)

[第一章  
『海洋摂理の幕開け』に進む](#)